



世界のソーシャル・カレンダー

[2015年秋 10月～12月]

文/中野香織

“超富裕階級”と呼ばれる人々は国籍にとらわれない共通の行動様式を有し、彼らが集まる場所には華やかな社交やビジネスチャンスが、では、超富裕階級による今の時代のリアルな社交は、世界のどこで繰り広げられているのでしょうか。

Text: KAORI NAKANO Realization: KAZUHIRO NONAKA

世界の富裕層にとって 共通の話題の二つが「馬」

一着100万円近いオーダーメイドスーツを作る売れっ子テーラーがいます。ヨーロッパと中東、そして日本の富裕層を顧客にもつ彼は、お客様との会話のために各種の教養を高めることも熱心なのですが、彼曰く、最も話題にのぼることが多いのが、馬のこと。名車のオーナーであることよりもむしろ馬主であることを誇るお客様が多く、それゆえ馬にまつわるイベントやそこでゴシップなど、馬関連の情報を知っておくと、仕事のうえでも非常に役立つのだそうです。

折しも、天高く馬肥ゆる秋。馬という観点でソーシャル・カレンダーを眺めてみると、なるほど、春夏ばかりではなく、この秋冬シーズンも、馬が主役のソーシャル・イベントが目白押しです。大きな行事だけ挙げても、例えば、アメリカではワシントン・インターナショナル・ホースショー、フランスではロンジンやグッチなどのブランドもからむロンジン・マスターズ・パリや、世界最高

峰の競馬の一つである凱旋門賞。そしてイギリスではクリスマスシーズンにオリンピック・ザ・ロンドン・インターナショナル・ホースショーが開かれます。

名馬が集まる場所では 社交が自然に発生する

オリンピックのホースショーは、馬を至近距離で見ることが出来る屋内ショーとしても知られ、レースのほかにドレッシング（障害飛越）、馬車競技といった華やかな競技が人気を集めます。最上階のメンバー席ではシャンパンを飲みながら食事をする方も。いずれのイベントにおいても、名馬が集うところには、馬主あるいはそれに近い人が集うことになり、ごく自然に、彼らの社交が繰り広げられます。国や職業の枠を超えて馬という共通の特権的な趣味でつながる人脈作りと情報の交換、それによって馬主階級の結束力を暗黙の裡に強めるという意味あいがあることを考えると、この場合の社交も、その階級なりの仕事とみなすこともできます。

馬の美しさと能力を公の場で披露する最も原始的な娯楽である競馬。したい、イギリス発祥ですが、「王のスポーツ」と呼ばれるように、王侯貴族の娯楽でもありません。土地所有者であるジェントルマン階級の貴族は、馬も所有します。交通手段としても、また狩猟などの遊びの手段としても、馬と共に生きてきた彼らがスポーツ（気晴らし）として支えてきた社交を伴う娯楽が、競馬でした。エリザベス女王も熱心な競馬ファンで、馬主でもあります。「キングジョージ6世&クイーンエリザベステークス」の優勝馬オリオールを筆頭に、数々の優勝馬をお持ちであるばかりでなく、生産者でもあります。フランスオークスの優勝馬ハイクレアの曾孫にあたるのが、ほかならぬ日本の伝説的駿馬デイビーインパクト。

また、女王の第二子にあたるアン王女が、馬術でモントリオールオリンピックに出場していたり、アン王女の長女ザラフィリップスが、ロンドンオリンピック総合馬術競技の団体で銀メダルを獲得するなど、ロイヤルメンバー自らが馬の乗り手として活躍しています。

競馬は、西洋の競馬とイメージがズレますが、それでも、馬主の世界は別格です。馬主、そして馬主予備軍の特別な世界の一端を、例えば競走馬競り市「セレクトセール」でのぞき見ることができます。今年も7月に北海道で行われ、2日間で130億円を超える取引が成立しました。一億越えの馬が計15頭、一頭当たり平均すると3344万円。

参加者は北海道産の食材を使った料理やお酒でもてなされ、VIP客は飛行機で招待されます。会場には、小誌リシェスが誘致した高級車や高級時計のブースが立ち並び（P.386にて紹介）、ここでは、馬を買う予算を持っていたにもかかわらず、競り落とせなかった、あるいは欲しい馬に出会えなかった人々が、持て余した予算でフェラーリやフランクミュラーなどを買っていきます。とある高級車ブースに居合わせた私の友人は、一人の客のこんな質問を耳にしました。「この車、馬より安いけど、ちゃんと走るの？」

Calendar of Social Events

今月の参加すべきソーシャル・イベント

October 10月のイベント

- 凱旋門賞 / 10月4日 パリ郊外、ブローニュの森にあるロンシャン競馬場で催される競馬の重賞(G1)競走。ヨーロッパ最大のレースの一つであり、VIPの社交の場でもある。http://凱旋門賞.jp.net/
- J70 ユーロピアン・チャンピオンシップ / 10月12～17日 由緒あるヨットクラブ・ド・モナコがホスト役を務めるヨット競技の欧州選手権。http://www.j70ycm.org/index.php/
- ワシントン・インターナショナル・ホースショー / 10月20～25日 57年の歴史をもつ、アメリカで最も prestigeeな馬術大会の一つ。キッズ・デイなども設けられている。http://www.wihs.org/

November 11月のイベント

- F1グランプリ・アブダビ / 11月27～29日 2015年F1レース全19戦のラストはアブダビ。暑いアブダビでも快適に観戦できるトワライトレースです。http://www.formula1.com/
- デヴィス・カップ決勝 / 11月27～29日 男子テニスの国別対抗戦。残念ながら錦織選手率いる日本は3月の1回戦でカナダに敗退。9月に準決勝が行われた。http://www.daviscup.com/en/home.aspx/
- パリ・デビュータントボール / 11月28日 欧州の名家の令嬢がオートクチュールをまとって集う、華やかなデビュータントダンス会。途上国の子女教育支援のチャリティも兼ねたイベント。http://www.lebal.fr/

December 12月のイベント

- UNICEF スノーフレーク・ボール / 12月1日 ニューヨークでも指折りのチャリティガラの一つ。1車(10名分)の価格は5万ドル、個人チケットは2500ドル。http://www.unicefsnowflake.org/
- アートバーゼル・マイアミビーチ / 12月3～6日 毎年6月にスイスで行われる、世界最大のアートフェアのアメリカ版。地元のコレクターも参加し盛り上がる。https://www.artbasel.com/miami-beach/
- オリンピア ザ・ロンドン・インターナショナル・ホースショー / 12月15～21日 「馬術界クリスマスパーティ」を標榜。併設のショッピングエリアにはハイブランドの店も。http://www.olympia.co.uk/

Column 中野香織のビューポイント

「文化の盗用」に対する過剰反応?

7月にボストン美術館「キモノウェンズデー中止事件」が起き、「文化の盗用」が議論的になっている。ボストン美術館のキモノウェンズデーとは、来場者にモネの「ラ・ジャポネーズ」の絵の前で打掛を着てもらい、自由に写真を撮ってもらおうという、キモノ振興を目論んだ試着イベントで、NHKも協力していた。それに対し、「アジア系アメリカ人が「帝国主義的であり、文化の盗用である」と抗議したのである。日本のキモノ文化に対する理解を促すことなく、西洋にとって単にエキゾチックなキモノと戯れさせるだけの軽薄なお楽しみを提供することは、民族や歴史を侮辱すること

につながる、と。この事件を契機に、ファッションにおける「文化の盗用」に対するチェックが厳しくなった。カナダの某モード誌が「アフリカのダシキ(民族衣装)は、カフタンに代わる新しいトレンド」と書いたことが、「文化の盗用であり、ダシキはトレンドとは無縁の神聖な服である」という非難を浴びている。異なる文化の融合から新しいものが創発されるという正論をかざしたいところだが、多文化・多民族が複雑に共生する社会では、このような「文化の盗用」に対する神経症が広がっていることも、心の片隅にとどめておきたい。

Kaori Nakano

なかの・かおり ● エッセイスト、服飾史家。東京大学大学院修了、英国ケンブリッジ大学客員研究員を経て文筆家に。過去2000年分のファッション史から最新モード事情まで、幅広い視野から研究、執筆、レクチャーを行う。2008年より、明治大学 国際日本学部 特任教授を務めている。著書に「モードとエロスと資本」ほか多数。
● 中野香織オフィシャルHP
http://www.kaori-nakano.com/